

## 平成23年度第2回総合計画審議会 議事概要

開催日時 平成23年8月31日(水) 14:00～16:20  
開催場所 共済会館 3階 大会議室  
出席者 計39名  
審議会委員22名【秋山委員、大西委員、川井委員、日下委員、篠原委員、杉山委員、高島(秀)委員、高橋委員、多智花委員、田中委員、中岸委員、戸田委員、中川委員、鍋島委員、橋野委員、藤村委員、村上委員、村澤委員、森脇委員、矢野委員、山尾委員、吉田委員】  
鳴門市16名【平野副市長、近藤教育長、山内企業局長、三好政策監兼企画総務部長、田村市民環境部長、三宅健康福祉部長、谷経済建設部長、近藤企業局次長、松前消防長、中野議会事務局長、中村教育次長、三木企画総務部副部長、事務局4名を含む】  
傍聴者1名

### 次 第

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 議事  
(1) 第五次鳴門市総合計画 平成22年度実績報告について  
(2) 第六次鳴門市総合計画(案)について
- 4 その他
- 5 閉 会

### 配布資料

- 【資料①】 第五次鳴門市総合計画実施計画(平成22年度実績まとめ)
- 【資料①-1】 実施計画実績 事業一覧表
- 【資料②】 第六次鳴門市総合計画策定の背景(素案)
- 【資料③】 第六次鳴門市総合計画将来都市像について
- 【資料④】 第六次鳴門市総合計画前期基本計画 施策別の基本方針(素案)
- 【資料⑤】 第1回鳴門市総合計画審議会議事概要
- 【資料⑥】 鳴門市総合計画審議会委員名簿

### 会議概要

- 1 開会、司会より新規委員の紹介を行った。
- 2 総合計画審議会条例に基づき田中会長が議長として会議を進めた。
- 3 議事(1)について、事務局が説明し、審議を行った。
- 4 議事(2)について、資料②、③、④を事務局がそれぞれ説明し、審議を行った。
- 5 その他で、第3回総合計画審議会の日程について、平成23年10月20日(木)14時から共済会館三階大会議室にて開催することとなった。
- 6 閉会

※主な質疑事項等、議事録の概要は別紙のとおり。

## ◆◆(1) 第五次鳴門市総合計画 平成22年度実績報告について◆◆

**田中会長**

22年度の事業総数は168事業であり、未達成は13事業ある。時間の関係で全ての事業の説明はしていただかなかったが、22年度の新規の事業あるいは未達成の事業、重点事業についてピックアップして説明いただいた。説明のなかった事業に関してでもかまわないので、質問、ご意見等があればどうぞ。

**委員**

4つほどお聞きしたい。

12ページのNo.61の老人クラブ活性化促進事業について、これは敬老の日に諸行事を行っていただいております。午後から老人クラブの芸能祭がある。この芸能祭に、以前は昼食としてパンとジュースとを配っていたが最近はそれがない。それを復活できないかという意見をよく言われる。同じ人が言うのであれば、私も言わないが、地域のいろいろな方から聞くので、復活できないかということが1つである。

15ページのNo.56の救急医療対策事業について、救急車で運ばれるときに鳴門病院で全部受け入れていただけるかどうか。医療体制が整っているかどうかをお聞きしたい。

50ページのNo.119の農地・水・環境保全向上対策事業については非常に助かっている事業である。水環境、治水に対して、いろいろな事業を行っている。花を植えたり、用水をさらえたりしている。それに子ども会や老人会、地域の自治会の方々、全てに出てきていただいて作業をしている。地域のコミュニケーションを取る場としても重要な事業として参加している。しかし今年が最終年である。これが継続するか否かの案内が（国から）農林水産課に来ているかをお聞きしたい。

64ページのNo.4の定員適正化事業について、計画どおり実施して「職員数754人から平成23年4月1日の712人へと42人の削減を行った」としている。最終的にどれくらいの職員でいろいろな市民サービスをしていくのかをお聞きしたい。

**三宅 健康福祉部長**

老人クラブ活性化促進事業について、ご指摘のとおり、敬老の日の集いにはパンと牛乳を市から出していたが、4、5年前から市の中のいろいろな行事については食べ物を出さないような形で取り組んでいる。昼食については、各単体の老人クラブにお願いしている。ただし、補助金については、社会福祉協議会を通じて老人クラブの事務局に持ってもらっている。老人クラブも今現在62クラブ、約3,443人の方が入っておられるものの、老人クラブ自体も人数が減少しており、活性化を図っていかなければいけない。そういう意見があったということは担当の長寿介護課に話をさせていただくが、おそらく昼食を考える（出す）という方向に行くのは難しいと思われるのでご理解いただきたい。

鳴門病院への救急搬送（救急医療対策事業）について簡単に申し上げる。一次救急、鳴門市の救急体制についてはある程度、第五次徳島県保健医療計画で定められている。一次救急は初期対応ということで、一般の鳴門市医師会に属している方をお願いする。二次救急としては、救急告示病院ということで鳴門市は鳴門病院と兼松病院をお願いしている。平成17年くらいまでは鳴門市の救急、鳴門病院に対する救急搬送率が75%くらいだったが、一時65%を切るような話があり、救急受入れが若干弱体化した時期があった。ところが、鳴門病院についても、昨年10月徳島大学から新たな荒瀬院長さんがお見えになり、全面的に医師会や徳島大学からバックアップするというので、救急搬送率が65%から、75%近くに上がってきている。そういう面では医療の領域については、鳴門病院や周りの病院のご協力をいただいて、前よりは良い方向に行っていると我々は思っている。三次救急としては、心筋梗塞、脳卒中等の重篤な病状については、鳴門病院での対応が難しいので、徳島大学病院、県立中央病院、小松島日赤というような形で消防とも連携し対応している。100%ではないが、救急医療については十分に取り組んでいるので、市民の方には安心していただけるような方向に流れていると思っている。

**委員**

ご飯も食べずに芸能祭を鑑賞しているという方もおられる。それならと言わせていただいた。

**三宅 健康福祉部長**

行政改革や縮小で食べ物は除いていくという全体的な中で、それぞれの会員クラブの方で食事は構えてい

るようだ。そういう要望があるということは、今日、社会福祉協議会の会長や老人会の会長もいらっしやるので、一緒に相談して協議していただきたい。ただし、市からするというのは現在では非常に難しいと思う。

#### 谷 経済建設部長

農地・水・環境保全向上対策事業は非常に便利が良い、国の100%事業である。各地区の希望を事前に聞いて割り振りをさせていただいている。用排水路の清掃やちょっとした整理に、便利に使っていただいているのだが、ご指摘のとおり今年度で最終年となっている。農林水産課の方にはまだ連絡がない状態であるがぜひとも、国の方で継続していただければありがたい。これを市の単独費だけで賄うことになるならば、非常に難しい。ぜひ皆様にご支援いただき国の方に声が届くよう、よろしくお願ひしたい。

#### 三好 企画総務部長

定員適正化事業については資料にあるように、平成23年4月1日、754人から712人へ、42人削減を行ったという状況である。定員管理については市の行財政改革の計画であるスーパー改革プランに基づき、平成22年から26年、要するに22年4月1日754人から27年の4月1日までの5年間で132人削減し、622人にするという計画で進めている。42人というのは132人の内の42人を1年間で削減しているということである。今後退職者が多く出てきた時に、新規採用者を抑制するという形で削減をしながら、行財政のスリム化、仕事のスリム化を図りながら、定員管理を進めていきたい。

#### 委員

28ページNo.44の旧焼却施設撤去事業については計画どおりできなかったということで、継続協議中となっている。継続協議中というのは、誰を相手に協議しているのか。地元には一向に説明に来ていない。撤去する場合は、地区の住民の願ひで、新しくセンターができれば撤去して欲しいという要望を出している。継続協議中というのは行政の中でされていると思うが、説明をお願いする。

29ページNo.90の公共下水道整備事業（污水）について、議会においても、広報においても大変な大きな事業で、住民からも喜ばれている事業ではなく、段々と独居高齢化していて家族も減っている。だからこういう下水道についてはなかなか協力できないというひとり暮らしの高齢者の方もおられる。そういう、家族が少なくなっている段階で、どういう啓発をしているかお聞かせいただきたい。計画どおりできなかった理由に住民及び云々と書かれているが、できなかった理由をお聞きしたい。

#### 田村 市民環境部長

旧焼却施設撤去事業については、平成20年度から瀬戸町で新しくクリーンセンターの操業を開始した。その時点で旧焼却施設は操業を停止し、市としても早急に旧焼却施設の撤去を考え、財源確保を検討する中で、国へ要望をしたり、市内でも旧焼却施設の撤去のための検討会議等を開催し、協議を行っている。誰を相手に協議しているのかという点については、市内での協議と財源確保のための国等への働きかけという意味である。現状では財源確保は非常に難しい状況となっており、協議を継続している。

#### 谷 経済建設部長

公共下水道整備事業（污水）については資料に記載しているとおおり、第一期事業区域については個別訪問させていただく等、いろいろな啓発を行い、加入促進を図ってきた。国等の関係機関の中で、協議に日程を費やした状況であり、目標に届いていない現状である。第二期事業区域については、地元説明会を進めており、いろいろな助成制度を見直し、9月11日から30日までテレビ鳴門を通じて市民に広くPRしていく予定である。早期加入促進が図られるよう、地元の皆さまにもお願ひしていただきたい。

#### 委員

旧焼却施設撤去作業について今説明していただいたが、やはり地元の方に来て、こういう状況でできないという説明が必要ではないだろうか。このまま放っておくと、自然に老朽化して自然に破損していく場合もあると思われる。特に南海地震というか、山の中では地震は関係ないかもしれないが、行政と住民との間をどうしていくかということを考えていただいて、自治振興会の時に来ていただいて、現在こういう状況であり協議継続中でできないから何年後やりたいとか、お金が無いからできてからやりたいとか、説明がないと住民が納得しないと思う。行政というものは、住民と行政があって、住民があって行政と思うので、これを考えていただけたらと思う。

## ◆◆(2) 第六次鳴門市総合計画（案）について◆◆

### 田中会長

来年度より、第六次鳴門市総合計画に基づいて行政が行われる。そのために本日ご審議いただきたいのは、資料②策定の背景、資料③将来都市像、資料④施策別の基本方針素案をご検討いただきたい。

資料②をご覧くださいと、全国的に少子高齢化ということもあるが、鳴門市の人口の推移についても全国の例にもれず減少傾向であるということが一目瞭然にわかる。私が鳴門教育大学に来たのが、平成3年であった。鳴門市に来た当時は活気もあり、気候もよく、住みやすいところだと思っていた。しかし人口減少とともに、鳴門市も伸び悩んでいるなという印象である。第六次鳴門市総合計画で、活気のある鳴門市に、という計画を立てていただけたらという思いである。

<<資料② 第六次鳴門市総合計画策定の背景（素案）について事務局より説明>>

### 田中会長

第六次鳴門市総合計画は第1回審議会で、10年間の期間とし、前期5年、後期5年の計画を立てるということをご了承いただいた。来年度から10年間の総合計画ということになる。これを策定するにあたり、まだ素案という段階だが、現在の日本の社会的バックグラウンド、鳴門市の特性を説明していただき、それを元にこういう観点・視点から策定していきたいということが示された。委員の皆さんには素案をよりしっかりした案という形に作り上げていくためにご意見をいただき、こういう観点・視点でいいのかどうか、付け加えるべき視点等があればどうぞ。

### 委員

3ページの(5)「高度情報化社会の進展」について、第1回の時の(市民意識調査)アンケート(結果)に(市が目指すべき将来都市像について、イメージの自由記入という設問における)情報関係の答えがなかった。去年の実績により、実際の問題点、課題点、市の状況がどのくらいなのか、というところから将来に渡ってお願いしたい。例えば市の橋や欄干など、重点的に直していっていると思うが、何年に作った橋で、何年前に改修したかということなど、全部コンピュータでデータベースがどこまできちりとできているのかどうか。電子国家や電子町内会と言われているが、この記載では題が「潮流と視点」なので、情報化社会という、単なる方針というか、イメージが全然湧いてこないし、どういう行政を目指すかという内容ではない。

(2)「子どもをとりまく環境の変化」はマイナスイメージばかり書いてある。中東ではああいうこともあるが、警察の方はマイナスに使われないように研修を受けている。

(1)「少子高齢化の進展と人口減少社会の到来」だが、一步踏み込んだ内容は、ここではなく他に書くのだろうか。審議会もあるが、インターネットで済むものとか多数決論理であるが、60年で進歩している。一方ではマスコミでは中抜きだと言っているが、広島市長などはマスコミ発表をせず、いきなり外へ自分からインターネットで発表している。そういう話を解説でも言っていたが、中抜きは非常に厳しい。バラ色ではなく、ローカルで情報を流すような社会も見えてきている感じがする。そういう視点も入れた方がいい。行政抜きというか、小さな行政という形で、大げさに考えると、オーストラリアやニュージーランドという形で、そこまで怖い社会が来ているのではないかという感じがしている。それも、雇用を大事にして、人を大事にして、社会を作っていこうという意味と、両面があるのだが、意見として二つである。

### 田中会長

いただいた意見を再度検討させていただきたい。

### 委員

3ページ(4)「深刻化する地球環境・資源エネルギー問題」④について、「福島原子力発電所」の頭に「東京電力」という言葉はいらないのか。新聞等では、「東京電力福島原子力発電所」とあり、「東京電力」と入れるのが本来の筋だがいかがか。

### 田中会長

正確にはそのとおりであり、これは素案なので文言の修正をしていただく。

#### 委員

ここに入れた方がいいかはわからないが、資料5ページ(3)「観光拠点として発展し、交流が活発なまち」についてだが、日独友好協会でドイツのリュートネブルクに皆さんと行ってきただけである。日本の都市はたくさんあるが、鳴門市とリュートネブルクほど密接な関係を40年に渡り築いているところはない。特に鳴門市の方々が1年おきに何十人も参加してドイツに行っている訳であり、リュートネブルクの市民も鳴門市を思う熱い気持ちを持っていて、大変密接な繋がりがある。そこをもう少し強調して、市民参加とか観光拠点とか、ドイツとの交流という中に具体的に詳しく、目玉のような形で入れてはどうか。もっと積極的に押し出してもいいのではないかな。

#### 委員

埼玉県の大宮へ行ったことがあるのだが、観光案内所を見ると、四国等へのツアー旅行のパンフレットが何枚かある。しかし鳴門はほとんど無い。伊予松山、竜馬のいる高知、香川の金比羅、帰りに鳴門の渦があるのかなのかくらいだった。ちなみに鳴門市を知っているかと聞いてみると、まったく知らないという。あちらで観光ツアーの資料をたくさん集めたのだが、四国一周(というツアープランでは)で日にちもないのだろうが、一番札所の霊山寺、ドイツ館もどこにも載っていない。やっとな渦があるかないか。それもほとんどの方が知らない。観光拠点として観光に力を入れるのであれば、もっと攻めて、大きな目でしてもらいたい。鳴門は地図から見たら非常にいいところなので、色んな企業や店が来たが、規定があり何年か居たのち、居なくなってそのままになった。結局、地図を見て良い所だと思って来てみたら、それほどでもなかったのか、人が集まらないのかどうかはわからないが、鳴門市に対する皆さんの考え方が甘かったのではないかな。三好や美波の人に聞いたら鳴門はいいところなのにどうして、鳴門と聞いただけで人が集まるという。それなのに、ちゃんとできていないと言われる。もう少し鳴門に誇りを持ち、鳴門に住みたいと言われるような施策をしないとイケない。例えば、高島はあんなに広い土地があり、教育大学ができて、もっと人が集まると思った。確かに家は建ったが、残念ながら公共バスがない。せめて公共バスが一日に何回も回るようにしてくれれば。高齢者ばかりでは困るかもしれないがそうではなく、老後は鳴門に住みたいな、という感覚を起こしてもらってそこから拠点にしたらもっと面白いかなと思う。鳴門は良い所だが、皆さんが当たり前のように思っている。自然がたくさんあるところなのに、もうちょっと宣伝というか、方法があればいいと思うがどうか。

#### 田中会長

いただいた意見を再度検討させていただきたい。

#### 委員

霊山寺に第九の発祥地がここ(鳴門)であるという看板がない。私は何年もお接待の世話をさせていただいており、お遍路さんは大勢回っているが聞いてみても知らない。ほとんどの方が知らずに次に行く。ここで初めて演奏されたという案内が霊山寺にあってもいいと思う。そうしたら関心のある方がドイツ館を回ってみようかということになるだろう。中には音楽好きな人がいるので、そういうのも観光に繋げてもらえたらいい。

#### 田中会長

5ページ(2)「魅力あふれる地域資源に満ちたまち」⑦にあるが、鳴門教育大学では「教育の一番札所 鳴門教育大学」というキャッチフレーズをつけている。鳴門は四国霊場八十八ヶ所の一番札所がある。難しいようだが、世界遺産にも登録しようとしている。これは思いつきだが「教育と芸術のまち 鳴門」というような見出しをつけて、その中に文化や伝統や教育、そういったことを入れ込むこともご検討いただければと思う。

<<第六次鳴門市総合計画将来都市像について事務局より説明>>

#### 田中会長

今後 10 年間の鳴門市のまちづくりの方向性について事務局が考えたキーワードが例示的に示されている。委員の皆さん、もっとこういうキーワードがいいのではないかというものがあれば、どうぞ。

#### 委員

鳴門市をよくするために一番必要なのは財源である。財源確保のために、一番大きいのは企業であり、既存企業では限られている。新しい企業誘致をしたり、働きかけたり、それから鳴門には誘致する余地があるのかどうか、教えていただきたい。もしあれば、新しく改革していく、財源の改革ということ盛り込んでほしい。

#### 事務局 広瀬 企画課長

市民意識調査等でもキーワードとして財源と雇用、働く場というのは意識として重要度が高い。鳴門市としても、企業誘致等については非常に重要な施策であると考えている。本日は現時点の案として示させていただいており、最終的には総合計画体系図になるということで、それぞれ分野ごとに計画を立てていっている。企業については産業という分野になっており、産業の振興と技術強化であるとか、雇用の安定、そういった施策に基づいて、いろいろな事務事業を実施していく。将来に向けてやっていく、という運びになる。現時点でお示しできていないが、担当課では、産業団地、鳴門ソフトノミックスパーク等企業誘致に向けて取り組むというような、いわゆる企業誘致に向けて取り組んでいくというようなフレーズの分野が出ており、今後その辺りについても十分にお示しさせていただき、その都度ご意見等いただきたい。

#### 委員

今年 1 月の広報に市長が新春対談で、鳴門商工会議所の会頭さんと大麻町商工会の会長さんとの三者の会談で、市の活性化として市民マラソンを計画したいのだと書かれていた。非常に良いことだが、具体的にプランはされているのか？

#### 中村 教育次長

市民マラソンは具体的な形にはなっていないが、ハーフマラソンのような形でできないかというのを、担当課の方で検討している。警察の方の協議や制限があり、今検討しているという状況である。

#### 委員

情報化社会でグローバル化している時に、鳴門市として教育の面で、国際的社会で生きていく子どもをどのように育てるのか。情報に対する教育をどのようにしようとしているのか。ハード面、ソフト面の整備はどのようになっているのか。私が伺ったところによると、鳴門市は日本の最先端を行っていた時代があった。しかし今は、徳島県でも下位の方に属しているような状態だと思われる。というのは、先般、美馬市へ行った時、学校自身のネットワーク化も進み、電子黒板も教室全部に入っている。国の補助金でしたということであったが、鳴門市も図書館ネットワークを、補助金をいただいて行った。しかし予算があまり無く、後の補充ができていない、機械が壊れてもなかなか直せないということを伺った。この辺りも力を入れてしないと、これからの子どもを育てていくには難しいのではないか。ただ、財源が必要なので、そういう問題はあろう。その辺りはどうなっているのかをお伺いしたい。

#### 中村 教育次長

かつては、市も財政的に豊かで、全国的にもトップクラスの ICT 教育を行っていた。国の方で、学校 ICT 環境整備事業があり、市の ICT の電子黒板整備は十分ではないが、昨年度の補正予算で、全てのテレビをデジタル化にするとか、校務用コンピュータを教員 1 人 1 台、それから教育用コンピュータを児童・生徒 3.6 人に 1 台、全部の普通教室に校内 LAN の整備をしようという形で、小学校においては全てのパソコンを配置した。中学校については現在整備を行っており、今後とも力を入れていきたいと思うのでご理解いただきたい。図書館ネットワークは手持ちの資料がないが、その点についても重点的に整備を行いたいと思う。

#### 田中会長

今までいただいた意見を元に、将来都市像について検討していただきたい。

<<資料④ 第六次鳴門市総合計画前期基本計画 施策別の基本方針（素案）について事務局より説明>>

## 田中会長

施策別の基本方針素案ということで、55項目提示されているが、時間の関係で抜粋してご説明いただいた。資料④に関してご質問、ご意見があればどうぞ。

## 委員

4ページの27.「上水道」について、下水道にしても水道の水を使うのだが、水道水は旧吉野川を水源としており、旧吉野川に感謝しないとイケない。水道水が旧吉野川から来ていること自体、市民も知らないと思うので、「旧吉野川を水源とする」ということを文章の中に入れて欲しい。

## 田中会長

検討時に取り入れさせていただきたい。

## 委員

4ページの26.「生活排水対策」について、「豊かな海を守り育てます」だけではなく、河川も入れた方がよいのではないかと。特に新池川だが、大代谷川も非常に汚れている。

## 委員

7ページの47.「農林水産業④ 水産業」について、公設市場で業者がいなくなって魚の市場がなくなつた。将来的には鳴門公設市場、水産の卸はできるのかどうか。教えていただきたい。

## 谷 経済建設部長

鳴門市の公設市場だが、水産の方を復活するというのは、元請の業者さんが現れない限り難しい。市場のシステムは、元請があり、仲卸があり、買人というシステムである。元請が来ない限り難しい。我々は徳島の元請や全国に公募して元請を募集したが、今のところ手を上げていただいているところはない。今後鳴門市の公設市場はどうなるのかということで、青果の方は順調に進んでいるので、青果の方は夜市、夜にセリや、10月30日に市場まつりを行うなど、いろいろと計画を立てて市民の方に身近な市場を目指したい。

## 委員

要するに、業者が現れない限り難しいわけで、鳴門はこれだけ魚が取れる所なのに、釣りにいかないと鳴門の魚が食べられないというのはいかがなものか。これはもっと行政が力を入れて、鳴門の美味しい魚が食べられるということをアピールできないと、どこから来たのかわからない魚を食べていたのでは、鳴門の名折れになると思う。鯛などは北灘で捕れたりしており、(流通は)大丈夫らしいが、小魚は、外へいくと売れないからどこへ行くか分からない。小魚も鳴門の魚は大変おいしい。もっと行政が力を入れて、鳴門の食材を鳴門で、せっかくなると金時や大根が取れても、魚も取れないと意味が無いので、一つ皆さんも考えていただきたい。良い方向で、鳴門に来たらおいしい魚があるという宣伝を、行政に任せるだけではなく、皆さんの知恵でできたらいいと思う。

## 委員

55項目、すごく素晴らしい。いろいろと網羅されていて感心する。ただ、7ページ48.「観光・交流」の項目に、「新鮮で豊富な食材などの観光資源を本物の観光ブランドとして推進するとともに」という記載の「本物」という言葉が、わかめの偽装があったのを感じられる。「本物」という言葉がいらないと思うので文章から除いた方がいい。

## 田中会長

いろいろと貴重な意見をいただいた。これを参考に基本計画の案を事務局で策定していただきたい。